



モスクワ日本人学校

# しらかば

第10号

モスクワ日本人学校  
一人一人が輝く学校  
笑顔あふれる学校

児童生徒数 90名

(E-mail)

[school@mosnichi.com](mailto:school@mosnichi.com)

(URL)

<http://www.mosnichi.com>

## 気持ちを一つにして

### 子どもの目が輝くとき

校長 石川 賢

「これで、より完成度の高い発表ができるよね」。一人の生徒の声に、自然と拍手が起りました。学習発表会の延期を伝えた時のことです。生徒たちは、振り返りに次のように綴っています。「もつと良い発表を作り上げようとする意識が伝わってきました。仲間の言葉を聞いてチャンスだと思い、家でも練習しました」

「昨年・一昨年にも負けない最高の演技でした。どう表現するのかなど、積極的に自分にできることを探しました」「みんなの中に『一致団結して成功させる』という強い気持ちがありました」等々。高まり合おうとする子どもたちの心の有り様が嬉しく、充たされた思いになります。

「こんなに目に光がない子どもたちが多い国は世界のどこにもない」。以前読んだ本にあった行です。世界中のいろいろな国や地域でしばらく暮

らしたり、長期に滞在したりしてきた人たちが、久しぶりの故国の見聞でひとつだけ一致する点だと言います。果たして、モス日の子どもたちの目は輝いているだろうか。浮かんできた問いです。と同時に、冒頭の生徒の言葉を思い出しました。

子どもたちは、「当てにされる」ことに喜びを感じます。他者から当てにされ、それに応じて力を発揮して、ありがたがられる。その関係のなかで、子どもたちは自信をもちます。子どもたちの目を輝かせる源は、この関係を豊かにすることではないでしょうか。

主役はいつも子どもたちです。大人の務めは、その出番をつくり、取組を励まし、そして、晴れ舞台に立つ主役に精いっぱい声援を送ることでしょう。皆様のご協力で、学習発表会も、その絶好の場になりました。

# 「未来」を考える (キャリア教育)

◆11月19日(木)、常原委員長の中学部生徒を対象にした特別講義がありました。キャリア教育の一環として以前から日程調整を行っていたものです。

◆常原委員長からは、「未来に勇気を！」というタイトルで、コロナ禍における世の中の変化と技術の進歩についてお話をいただきました。「拡張の世紀」という本を基にしたお話に感銘を受け、生徒たちは、自分が生きる「未来」に思いを馳せました。



○技術が発展し続けた先はどのようなになるのか、その社会をつくって行くのが未来を生きる私たちなのではないかと感じました。勇気をもって新しい未来を切り拓いていきます。

(Aさん)

○技術発展の速さに驚くと共に、その世の中に自分たちが突入していくと思うと、なんだか背筋がピリッと伸びました。今後どういう道に進むか分かりませんが、これからは、もっと情報に対するアンテナを張って生きていこうと思いました。

(Bさん)

○今の生活に危機感をもちました。コロナによって急速に直接対話が減っていると感じたからです。これからは、距離のことを考えながらも、できる限り相手と直接会話していこうと思います。新しい気付きを与えてもらいました。

(Cさん)



◆11月24日(火)午前中、ユニクロ様にお出でいただき、「職場に学ぶ会」を実施しました。例年は、こちらから各事業所様に向いて体験をさせていただきましたが、コロナ禍でそれが叶わず、内田様と百々様にお出でいただき特別講義という形の職場体験学習になりました。

◆午後からは、NHKモスクワ支局の松尾様と茶園様がオンラインでの特別講義を行ってくださいました。課題を出したり、資料を準備されたりして、生徒が受け身で学習を進めないよう配慮していただきました。

◆例年とは形の違う職場体験でしたが、いろいろと工夫していただき、「現場」を感じることができました。生徒たちには、自身の「未来」を考える格好の機会になりました。



上：実際に商品をたたく。 (ユニクロ様)

下：オンラインで交信する。(NHKモスクワ支局様)

## お礼とお知らせ

◆学校評価に係る保護者アンケートにご協力いただき、たいへんありがとうございます。

◆現在集計作業中ですが、いただいたご意見は今後の学校運営の改善・充実につなげていきたいと考えています。今後の日程は左記のとおりです。引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

【今後の予定】

○十二月学校運営委員会

速報として資料提供

○十二月中

教職員の自己評価と合

わせて校内で検討

○一月学校運営委員会

検討結果提供・意見交換

○一月下旬

評価結果配付